

俵たわら

自然の厳しきから「食」を守る

俵とは、穀物や芋、塩、木炭などを貯蔵・運搬するための藁でできた袋のことです。米俵、芋俵、炭俵など、俵は日本人に欠かせないさまざまな食物を守ってきた聖なる容器ともいえるでしょう。正月には、俵を象つた小型の藁の飾り物を供えたり、俵そのものをご神体とする風習もありました。子供や芸人が小型の俵を持ち、祝歌を披露しながら家々をまわる行事も各地で見られます。東京都八王子市では、子供組が行う「福の神」行事として現在でも継承されています。

俵のかたちを象つたしめかざりは、山形県に多く見られます。すでに紹介した宝船のしめかざりも「俵」を扱っていますが、かたちに違いがあります。宝船の俵は船に積まれているので本体（船）とは別のパーツとして作られますが、俵のしめかざりは全体が一つの大きな俵になるのが特徴です。

もともと稲作には不向きだった北の土地で、先人達は長いあいだ品種改良に苦心してきました。俵のしめかざりには私たちの想像をはるかに超えた、切実な豊作への願いが込められているのかもしれない。

山形県鶴岡市

細縄を広げたときの全長
188.0cm(うち俵部分の横幅
28.5cm)

このしめかざりは両端の細縄を
開いて飾る。俵部分は藁のミゴとよばれる部分で繊細に
作られており、一つ完成させるの
に一日半はかかるとのこと。



Straw Bale

Straw bales were important containers to protect rice, sweet potatoes, salt, charcoal and other valuable goods. Bale-shaped shimekazari are common in Yamagata pref., where they signal a particularly earnest wish for a good harvest. It is a northern province that was originally unsuitable for rice cultivation, which was only successful after long hardships and patient experimenting with selective breeding.